

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難						
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計								
家政学部	児童学科	夜・通信	39	0	0	39	13							
	食物学科	夜・通信			0	39	13							
	住居学科	夜・通信			0	39	13							
	被服学科	夜・通信			0	39	13							
	家政経済学科	夜・通信			0	39	13							
文学部	日本文学科	夜・通信			39	0	0	39	13					
	英文学科	夜・通信					0	39	13					
	史学科	夜・通信					0	39	13					
人間社会学部	現代社会学科	夜・通信					39	0	0	39	13			
	社会福祉学科	夜・通信							0	39	13			
	教育学科	夜・通信							0	39	13			
	心理学科	夜・通信							0	39	13			
	文化学科	夜・通信							0	39	13			
理学部	数物情報科学科	夜・通信							39	0	0	39	13	
	化学生命科学科	夜・通信									0	39	13	

国際文化学部	国際文化学科	夜・通信			0	39	13	
家政学部 通信教育課程	児童学科	夜・通信	2	2	18	22	13	
	食物学科	夜・通信			14	18	13	
	生活芸術学科	夜・通信			12	16	13	
<p>(備考) 家政学部・文学部・人間社会学部・理学部 (通学課程) においては、2021 年度よりキャンパス統合に伴い、新課程 (2021 年度入学者より適用)、旧課程 (2020 年度入学者まで適用) が設定されている。</p> <p>なお、旧課程 (2020 年度入学者まで適用) においてのみ全学共通科目「教養特別講義 2 (1 単位)」が開講されているため「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」の合計は 40 単位となる。</p> <p>また、2023 年度より国際文化学部国際文化学科を新設し、人間社会学部文化学科を募集停止とした。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>実務経験のある教員等による授業科目を一覧にして、本学公式 HP 上で公表する。 また、全授業科目の各シラバス画面に上記一覧表の公表ホームページアドレスを記載する。</p> <p>一覧表の公表ホームページアドレスは以下のとおり。 家政・文・理学部・人間社会学部・国際文化学部 (新課程 (2021 年度入学者より適用) 及び旧課程 (2020 年度入学者まで適用)) https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/</p> <p>(通信教育課程) 2020 年度から授業概要の項目「概要」部分に実務経験のある教員等による授業であることを明示している。また、一覧表も掲載している。 https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人日本女子大学公式ホームページに公開 https://www.jwu.ac.jp/grp/about/board.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	愛知淑徳大学名誉教授	2023.1.21 ～ 2027.1.20	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
非常勤	弁護士	2023.1.21 ～ 2027.1.20	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
非常勤	日本総合住生活(株) 特別顧問	2023.1.21 ～ 2024.3.31	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
非常勤	関西大学東京センター 長	2023.1.21 ～ 2027.1.20	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
非常勤	(一社)日本女子大学教育 文化振興桜楓会理事長 日本女子大学名誉教授	2020.7.11 ～桜楓会理事 長である間	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
非常勤	日本女子大学名誉教授、 (一社)日本ケアラー連盟 代表理事	2020.5.26 ～ 2024.3.31	学校法人に対する 客観的な意見をい ただく
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年前年度6月に、「カリキュラム編成等の基本方針に関する申し合わせの会」において、次年度のカリキュラム編成が検討される。この基本方針においてシラバス作成指針も示され、各担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。シラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から、担当教員以外の第三者によるチェックを行った上で、本学情報システム「JASMINE-Navi」及び本学公式HP上において公表する。 ・授業計画(シラバス)は、例年前年度12月初旬～2月中旬に各教員により本学情報システム「JASMINE-Navi」を通じて作成され、例年3月下旬に公表される。 ・各教員は授業計画(シラバス)として以下の項目を記載している。 「授業科目名」「担当者名」「単位数」「ナンバリング」「授業の概要」「授業の方法」「学生に対する教員からのフィードバックの方法」「学位授与方針との関係」「授業の到達目標」「授業計画」「授業形態の種類」「成績評価の方法」「授業外で行うべき学修」「使用テキスト」 <p>(通信教育課程) 次年度の授業科目表決定後、当該授業科目担当者に対して記入要領・記入例を提示、現行の授業概要を添付して次年度の授業概要作成を依頼する。各授業担当者から提出された原稿の記載内容について、校正作業により問題がないか確認した後、第三者チェックを経て確定としている(遅くとも2月中旬)。</p> <p>記載項目については、「概要」「到達目標」は全科目に記載、テキスト科目では「学習の進め方」「テキスト・参考書」「成績評価(レポート、科目修了試験)」、スクーリング科目では「授業計画」「受講にあたって①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間、事前課題、②使用教科書、③参考書、④持参するもの、⑤成績評価(方法と基準)、⑥学生へのメッセージ」を掲載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学生に対しては、例年3月下旬に本学情報システム「JASMINE-Navi」にて公表している。また、学外者も本学公式ホームページからシラバスを検索することが可能である。</p> <p>https://www6.jwu.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp</p> <p>(通信教育課程) 例年、開講年度の前年度の3月半ばまでに通信教育課程のホームページにおいて公表している。</p> <p>https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- すべての授業科目は、その履修終了時において、試験その他の方法によって成績の評価を行っている。前期科目・後期科目の評価は各期の終了時に行われ、通年科目の評価は1年を通じた履修の終了時に行われる。
- 成績評価が与えられる条件は、①当該科目が履修登録された科目であること、②授業時間数の2/3以上出席していること、となっている。
- 成績評価は次の通り

合否	合格					不合格	
評価	A+	A	B	C	P	F	X
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	合格	59点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達目標を最低限達成できている成績	段階なし	到達目標を達成できていない成績	評価なし

(通信教育課程) 授業担当者には授業概要作成、レポート課題・科目修了試験出題に当たり、成績評価の基準及び予め示した方法・基準により学修成果の評価を行うことを通知し、さらに、実際の成績評価(レポート添削、科目修了試験採点、スクーリング成績評価)にあたってその基準を再確認した上で、学生の学修評価を公正かつ厳格に行うことを徹底している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学においては、「GPA制度の取扱いに関する規程」にGPA制度の取扱いに必要な事項を定め、これに基づき実施、運営を行っている。GPAの算出方法としては、学期ごとに履修した対象科目を基にした「学期GPA」及び入学後から現在までに履修した全ての対象科目(累積成績)を基にした「通算GPA」ともに、算出方法は次のとおりとし、小数点第3位(第4位で四捨五入)まで表示している。

●GPA = (A+の単位数×4.0 + Aの単位数×3.0 + Bの単位数×2.0 + Cの単位数×1.0) ÷ 履修登録単位数 (F及びXを含む) ※評価「P」はGPA算出に含めない。

上記の算出方法に基づいた「学期GPA」及び「通算GPA」を学生の学習意欲を高めるとともに適切な修学指導に資するため、所定の期日に各学科へ所定の様式で通知し、各学科は、成績不振の認定基準に該当する学生には個別指導等を行っている。

また、学生等が成績の相対的な位置を把握できるようにするため、別紙資料の形式で、前年度の各学科における成績(当年度GPA)分布状況を本学情報システム「JASMINE-Nav」及び本学教職員向けwebサイトを通じて学生・専任教職員に向けて公表している。

(通信教育課程) GPAは2019年度入学者から適用開始している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

本学HPにて算出方法を公表している
<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

(通信教育課程)『履修の手引』に制度の説明及び算出方法等を掲載している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学において学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び、卒業するために必要な単位数(卒業要件)の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第23条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。

学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文(学科によっては卒業研究・卒業制作)を全学科必修とし、毎年2月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に4年以上在学し、学則第23条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

(通信教育課程)卒業の認定に関する方針の具体的な内容=ディプロマ・ポリシー(学位授与に関わる方針)：

- ・人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
- ・生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献することができる。
- ・現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

卒業の認定に関する方針にある能力を学生が満たしているかは卒業間近の学生が参加する軽井沢卒業セミナーにおいて複数の教員により確認されている。通信教育課程のため、自動的な卒業制度はとらず、学生の自主性に基づく卒業申告に基づき、卒業認定を行っており、ここでは卒業に必要な要件を満たしているか事務が確認した後、各学科教員により卒業と認定してよいか審査している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	【3つのポリシーについて(本学HP)】 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html (通信教育課程)本学HPで公表するほか、入学案内にも掲載し、広く配布している。
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
財産目録	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
事業報告書	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
監事による監査報告(書)	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画 対象年度:平成29・30、2019・2020・2021・2022・2023年度)
公表方法: https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
中長期計画(名称:学校法人日本女子大学中・長期計画 対象年度:2014~2023年度)
公表方法: https://www.jwu.ac.jp/content/files/grp/about/mid_long_term/mid_long_term_2019.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.jwu.ac.jp/unv/about/sr/check.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.juaa.or.jp/updata/evaluation_results/291/20200326_691450.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf ）
（概要） 家政学は人間の生活を科学する実践的総合科学である。家政学部では生活の科学を学び、生きる力を養うとともに、生活の質を向上させ社会をより豊かにする力を持ち、人類の健康、安全、福祉に貢献したいという意欲あふれる女性を育成することを目的とする。 （通信教育課程）通信教育課程では、家政学部の教育上の目的に則り、人間が生きるために欠かせない衣・食・住のあり方について、また子どもの環境について総合的に科学し、専門的に学修した知識を実生活や職場で役立てることのできる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf ）
（概要） 本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。 学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究・卒業制作）を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。 （通信教育課程）卒業の認定に関する方針の具体的な内容＝ディプロマ・ポリシー（学位授与に関わる方針）： ・人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。 ・生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献することができる。 ・現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。 卒業の認定に関する方針にある能力を学生が満たしているかは卒業間近の学生が参加する軽井沢卒業セミナーにおいて複数の教員により確認されている。通信教育課程のため、自動的な卒業制度はとらず、学生の自主性に基づく卒業申告に基づき、卒業認定を行っており、ここでは卒業に必要な要件を満たしているか事務が確認した後、各学科教員により卒業と認定してよいか審査している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf ）

(概要)

(大学全体)

日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。

- ・ 本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。
- ・ 女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。
- ・ 様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。
- ・ 専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。
- ・ 豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。
- ・ 専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。
- ・ 個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。

(家政学部)

- ・ 複合領域の科学としての家政学の総合性・独自性を理解するために、家政学部共通科目を置く。
- ・ 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、5 学科の専門科目を置く。
- ・ 興味に応じて実践的な学修ができるよう、あるいは講義で修得した内容を実証するために、各分野の実習・実験科目を置く。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業論文・卒業研究・卒業制作のいずれかを必修とする。
- ・ 5学科の専門性に対応するキャリア形成を促進するために、資格関連の科目も重視する。

(通信教育課程)

- ・ 複合領域の科学としての家政学の総合性・独自性を理解するために、家政学部共通科目を置く。
- ・ 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、児童、食物、住居、被服学の専門科目を置く。
- ・ 学修の集大成として卒業時に共同生活を通じて、さらなる本学教育の理念への理解を深め、また、ゼミ形式で専門課題を学習する「軽井沢卒業セミナー」を必修で置く。
- ・ 通信教育の印刷教材による授業と面接授業の特性を生かし、テキスト科目とスクーリング科目を開講する。テキスト科目ではレポートの作成により、知識のみではなく思考力・表現力を習得する。スクーリング科目の実験実習では、知識・技能の他に思考力・判断力、他の学生と協働して学ぶ態度を習得し、演習科目では思考力・判断力・表現力を習得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学が求める学生は次のとおりである。

- ・ 本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。
- ・ 自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。
- ・ 女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。
- ・ 本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。

<p>(家政学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を科学的に考えてみたい人。 ・日常の生活に関わる問題に興味のある人。 ・生活の質を高め、生活をより豊かにする方法について考えてみたい人。 <p>(通信教育課程)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家政学を学び、生活や社会に役立てたいと思っている人。 ・目的を明確に持った人(卒業・資格取得・生涯学習等)。 ・通信教育という方法で学修を進めていこうという意欲のある人。 ・生活と仕事のバランスを考えた学修計画を立てられる人。

<p>学部等名 文学部</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、日本ならびに諸外国の文学・言語・歴史の探究をとおして自己と世界についての認識を深め、単なる実用性にとどまらず、より高度な学問的追究と批評精神をもって新しい文化の創造に貢献する自立した女性を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学において学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び、卒業するために必要な単位数(卒業要件)の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第23条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。</p> <p>学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文を全学科必修とし、毎年2月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に4年以上在学し、学則第23条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。 ・女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。 ・様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。 ・専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。 ・豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。 ・専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。 ・個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。
<p>(文学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文学の各分野を専門的に学ぶために、3学科の専門科目を置く。 ・段階的に専門知識を修得するための体系的な講義・演習科目を置く。

<ul style="list-style-type: none"> ・資料・文献の読解力を養うための言語教育科目を置く。 ・調査・考察・コミュニケーションの力を養うための演習科目を置く。 ・4年間の学修の集大成として、卒業論文を必修とする。 ・卒業後の活躍の場を更に広げるために、副専攻（文学部コース制）として、「文化マネジメントコース」、「観光・文化コース」、「文化財コース」の3コースを置く。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）</p>
<p>（概要） （大学全体） 日本女子大学が求める学生は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。 ・自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。 ・女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。 ・本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。 <p>（文学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間とは何であるかを言語・文学・文化・歴史を通して学びたいと思う人。 ・文学や文化的・歴史的遺産を通して自分の生き方を考え、自己実現を達成しようと思う人。 ・テーマにそって資料を調べ、考えをまとめ、自分の言葉で発表する技能を身に付けたい人。

<p>学部等名 人間社会学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf）</p>
<p>（概要） 人間社会学部は、人間の視点から社会を、社会の視点から人間を、多様なアプローチのもとで専門的・実践的かつ総合的に学び、人間と社会についての幅広い教養と深い学識を身につけた意欲ある女性を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf）</p>
<p>（概要） 本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第23条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。 学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究）を全学科必修とし、毎年2月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に4年以上在学し、学則第23条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。 ・ 女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。 ・ 様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。 ・ 専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。 ・ 豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。 ・ 専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。 ・ 個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。 <p>(人間社会学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間と社会を多様な視点から考察するために、5 学科の専門科目を置く。 ・ 資料・文献の読解力、コミュニケーション力を養うための外国語科目を置く。 ・ 5 つの分野が有機的に結びつき、国際的及び学際的な見方ができるよう、教養的な科目の他に他学科専門科目を通して3 つの領域を総合的に学ぶ展開科目を置く。 ・ 問題発見力、データ収集力、データ統合・分析力を能動的に学び、自立した実践力・行動力を養うための学生参加型の演習・実習科目を置く。 ・ 4年間の学修の集大成として、卒業論文・卒業研究のいずれかを必修とする。 ・ 現代女性の生涯を視野に入れたキャリア形成に必要な知識や現状を学ぶことを目指すため、3 コースからなるキャリア女性学副専攻を置く。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学が求める学生は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。 ・ 自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。 ・ 女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。 ・ 本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。 <p>(人間社会学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の身のまわりのことから世界で起こっていることまで、社会の様々なことがらをいろいろな角度から考え、国際的な視野を身に付けたい人。 ・ 人間が社会とどう関わっているのか、その社会とはどんなものなのか、という疑問を持っている人。 ・ テーマにそって資料を調べ、更に実地調査や実験を行い、それらの実証的なデータをもとに考えをまとめ、展開してみたい人。
<p>学部等名 理学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>理学部は、実験のおよび理論的な訓練を土台とした自然科学教育により、自然の真理を探究する論理的思考能力と創造力、そして複雑な現象に隠されている原理を発見し応用する力を兼ね備えた、自立した女性を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。</p> <p>学位授与を適切に行うための措置として、卒業研究を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。 ・ 女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。 ・ 様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。 ・ 専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。 ・ 豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。 ・ 専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。 ・ 個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。 <p>(理学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校教育からの連続性に留意した基礎教育として、各分野の基礎的な力を身に付けるために、数学・物理学・化学・生物学・情報科学等の理学基礎系列の科目を置く。 ・ 自然科学の各分野、及び境界領域分野における専門的知識や論理的思考法を修得させるため、数学・物理学・化学・生物学・分子生命科学・環境科学・情報科学の各分野の体系的な授業科目として専門科目を置く。 ・ 各分野の講義で修得した内容を実証するための実験科目並びに演習科目を置く。 ・ 4 年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学が求める学生は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。 ・ 自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。 ・ 女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。 ・ 本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたい人。

<p>いる人。</p> <p>(理学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科や数学が好きで、もっと深く体系的に学びたいと思っている人。 ・実験や演習が好きで、論理的な思考能力を高めたいと思っている人。 ・自然界の様々な現象を理論的・科学的に明らかにしたいと思っている人。
<p>学部等名 国際文化学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/mokuteki_unv_2023.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>国際文化学部は、様々な地域や研究領域に存在する問題を自らつかみとり、それを国際的視野や学術的知見に基づいて理解・把握し、他者と協力しながら解決を模索することを通して、新たな文化や社会の構築に主体的にかかわることができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/diploma_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。</p> <p>学位授与を適切に行うための措置として、卒業研究を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行う。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/curriculum_policy_unv.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>(大学全体)</p> <p>日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。 ・女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。 ・様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。 ・専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。 ・豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。 ・専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。 ・個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。 <p>(国際文化学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な地域・領域の文化を専門的に学ぶために、国際文化学科の専門科目を置く。 ・複合領域としての国際文化の学びにアプローチするために、理論的かつ実践的な導入科目を置き、「越境体験」としての海外短期研修を必修とする。 ・大学での学びに必要な論理的思考・スキル・ICT・コミュニケーション力や、国際文化

<p>研究の基本的な方法を身に付けるために、アカデミック・トレーニング科目を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外・国内を問わず、教室の外に文化に関連する課題を見出し、他者と協力しながら解決する力を身に付けることを目的とする実習科目として「実践プログラム」を置き、その成果を外国語で発信する科目と合わせて、実践トレーニング科目とする。 4年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）</p>
<p>（概要） （大学全体） 日本女子大学が求める学生は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。 自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。 女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。 本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。 <p>（国際文化学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外に存在し、複雑に絡み合う諸文化を、多様な言語を修得したうえで、複眼的・論理的・国際的な観点から理解することによって、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けたい人。 実践的な取り組みの成果を言語化し、ICT も用いて発信するために必要な論理的思考力やスキル、コミュニケーション能力を身に付けたい人。 教室外での実践・体験プログラムを通して得た実践的な知と専門的な知識とを結びつけ、社会のフィールドにおける文化的課題に、他者と協力しながら取り組みたい人。

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
家政学部	—	34人	15人	6人	12人	10人	77人
文学部	—	29人	12人	2人	6人	1人	50人
人間社会学部	—	32人	14人	2人	10人	0人	58人
理学部	—	20人	8人	4人	5人	6人	43人
国際文化学部	—	9人	5人	1人	2人	1人	18人
その他	—	2人	1人	1人	0人	0人	4人
通信教育課程	—	3人	1人	0人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計

	0人	739人	739人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： https://researchmap.jp/		
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)			
従前は学部、大学院とそれぞれで行われていたFD活動をより全学的な視点で推進するために、2021年度よりJWU女子高等教育センターにおいてFD活動を一括して行っている。授業内容・方法の改善に向け、授業アンケートの実施や教職員の意識改革に寄与するようなセミナーを開催することで、組織的なFDの取り組みを推進している。主な取り組みは以下のとおり。			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業アンケートの実実施計画・結果分析ならびに組織的な授業改善を進める仕組みの構築 ・FDに関する情報収集 ・学内FD研修、セミナーの企画・実施、FDの意義の周知 ・学修成果の測定並びに評価方法の検討 ・外部からの視点によるカリキュラムの継続的点検 			

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
家政学部	447人	461人	103.1%	1,788人	1,858人	103.9%	－人	0人
文学部	377人	338人	89.7%	1,508人	1,549人	102.7%	－人	0人
人間社会学部	364人	385人	105.8%	1,819人	1,894人	104.1%	－人	0人
理学部	189人	193人	102.1%	756人	773人	102.2%	－人	0人
国際文化学部	121人	123人	101.7%	121人	123人	101.7%		人
合計	1,498人	1,500人	100.1%	5,992人	6,197人	103.4%	－人	0人
通信教育課程	3,000人	182人	6.1%	12,000人	1,678人	14.0%	－人	133人
(備考) 編入学は若干名募集								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政学部	450人 (100%)	43人 (9.6%)	383人 (85.1%)	24人 (5.3%)
文学部	398人 (100%)	19人 (4.8%)	335人 (84.2%)	44人 (11.1%)
人間社会学部	475人 (100%)	34人 (7.2%)	418人 (88.0%)	23人 (4.8%)
理学部	199人 (100%)	49人 (24.6%)	143人 (71.9%)	7人 (3.5%)
合計	1,522人 (100%)	145人 (9.5%)	1,279人 (84.0%)	98人 (6.4%)

<p>(主な進学先・就職先) (任意記載事項)</p> <p>【進学先】 日本女子大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院</p> <p>【就職先】 アクセンチュア、NTTデータ、カルビー、キーエンス、キリンホールディングス、国際協力銀行、コニカミノルタジャパン、サントリーホールディングス、清水建設、松竹、SUBARU、住友林業、積水化学工業、ソニー、大日本印刷、大和ハウス工業、高砂熱学工業、デロイトトーマツコンサルティング、東京エレクトロン、東京海上日動火災保険、凸版印刷、日産自動車、日本IBM、日本銀行、日本政策投資銀行、日本総合研究所、日本電気、日本ハム、日本放送協会、PwCコンサルティング、東日本電信電話、東日本旅客鉄道、富士通、毎日新聞社、三菱UFJ銀行、三菱電機、読売新聞社、楽天、ロート製薬 国家一般職、国家専門職 国税専門官、東京都、神奈川県、北海道、東京・特別区、横浜市、警視庁、東京都立小学校、神奈川県立小学校、東京都立中学校、埼玉県立高等学校 他</p> <p>(備考)</p>
--

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
家政学部	460人 (100%)	435人 (94.6%)	12人 (2.6%)	13人 (2.8%)	0人 (0%)
文学部	394人 (100%)	362人 (91.9%)	25人 (6.3%)	7人 (1.8%)	0人 (0%)
人間社会学部	490人 (100%)	456人 (93.1%)	19人 (3.9%)	15人 (3.1%)	0人 (0%)
理学部	202人 (100%)	191人 (94.6%)	5人 (2.5%)	6人 (3.0%)	0人 (0%)
合計	1,546人 (100%)	1,444人 (93.4%)	61人 (3.9%)	41人 (2.7%)	0人 (0%)
通信教育課程	44人 (100%)	3人 (6.8%)	23人 (52.3%)	14人 (31.8%)	4人 (9.1%)
<p>(備考) 転学部 家政学部→人間社会学部 1名、文学部→人間社会学部 1名</p> <p>(通信教育課程) 10月入学者は含めず算出。家政学部通信教育課程では仕事・家事・育児等と両立させて学ぶことから、テキスト科目の修得に複数年かかることが多く、留年となる学生が多い。その他は主として授業料未納による除籍者である。</p>					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年前年度6月に、「カリキュラム編成等の基本方針に関する申し合わせの会」において、次年度のカリキュラム編成が検討される。この基本方針においてシラバス作成指針も示され、各担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。シラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から、担当教員以外の第三者によるチェックを行った上で、本学情報システム「JASMINE-Navi」及び本学公式HP上において公表する。 授業計画(シラバス)は、例年前年度12月初旬～2月中旬に各教員により本学情報システム「JASMINE-Navi」を通じて作成され、例年3月下旬に公表される。 <p>(通信教育課程)</p> <p>次年度授業科目表決定後、当該授業科目担当者に対して記入要領・記入例を提示、現行の授</p>

業概要を添付して次年度の授業概要作成を依頼する。各授業担当者から提出された原稿の記載内容について、校正作業により問題がないか確認した後、第三者チェックを経て確定としている（遅くとも2月中旬）。

記載項目については、「概要」「到達目標」は全科目に記載、テキスト科目では「学習の進め方」「テキスト・参考書」「成績評価（レポート、科目修了試験）」、スクーリング科目では「授業計画」「受講にあたって①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間、事前課題、②使用教科書、③参考書、④持参するもの、⑤成績評価（方法と基準）、⑥学生へのメッセージ」を掲載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
 本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第23条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。
 学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究・卒業制作）を全学科必修とし、毎年2月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に4年以上在学し、学則第23条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

（通信教育課程）
 授業担当者には授業概要作成、レポート課題・科目修了試験出題に当たり、成績評価の基準及び予め示した方法・基準により学修成果の評価を行うことを通知し、さらに、実際の成績評価（レポート添削、科目修了試験採点、スクーリング成績評価）にあたってその基準を再確認した上で、学生の学修評価を公正かつ厳格に行うことを徹底している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
家政学部	児童学科	127 単位	○・無	49.5 単位
	食物学科 (食物学専攻)	129 単位	○・無	49.5 単位
	食物学科 (管理栄養士専攻)	129 単位	○・無	49.5 単位
	住居学科 (居住環境デザイン専攻)	129 単位	○・無	49.5 単位
	住居学科 (建築デザイン専攻)	129 単位	○・無	49.5 単位
	被服学科	128.5 単位	○・無	49.5 単位
	家政経済学科	127 単位	○・無	49.5 単位
文学部	日本文学科	127 単位	○・無	49.5 単位
	英文学科	129 単位	○・無	49.5 単位
	史学科	125 単位	○・無	49.5 単位
人間社会 学部	現代社会学科	125 単位	○・無	48 単位
	社会福祉学科	127 単位	○・無	48 単位
	教育学科	128 単位	○・無	48 単位
	心理学科	125 単位	○・無	48 単位
	文化学科	125 単位	○・無	48 単位

理学部	数物情報科学科	127 単位	㊦・無	49.5 単位
	化学生命科学科	127 単位	㊦・無	49.5 単位
国際文化学部	国際文化学科	125 単位	㊦・無	48 単位
通信教育課程	児童学科	124 単位	㊦・無	50 単位
	食物学科	124 単位	㊦・無	50 単位
	生活芸術学科	124 単位	㊦・無	50 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		<p>公表方法： 大学ポータルサイト及び本学 HP 上にて、活用状況を以下のとおり記載している。 学期毎の学習成果と推移を明確化して、より細やかな学修指導に活用すること、また、学生の学修意欲を高めるとともに、学生自らが適切な履修計画を立てて勉学に取り組むことを支援するために、本学においては、成績不振学生に対する対応、学生に対する履修支援の強化、学生の学修意欲を高めることにGPAを活用している。 （通信教育課程）学生が自分の学修の履歴や到達度を把握できることより学習意欲の向上と自主的な履修計画の支援を目的としてGPAを活用している。</p>		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		<p>公表方法： 【学生の在学中の学修時間の傾向・満足度等】 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/6/alcs_2022.pdf</p> <p>【学生の学外試験や資格取得の状況】 資格取得実績（管理栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士） https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html</p> <p>【受賞・活躍紹介】 http://blog.jwu.ac.jp/prize/ その他、保護者向け冊子「学園ニュース」にて公表</p>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
家政学部	児童学科	820,000 円	200,000 円	321,600 円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収・年間)
	食物学科 食物学専攻	950,000 円	200,000 円	334,200 円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収・年間)
	食物学科 管理栄養士 専攻	950,000 円	200,000 円	343,200 円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	住居学科 居住環境デザイン専攻	900,000 円	200,000 円	326,200 円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)

	住居学科 建築デザイン専攻	900,000円	200,000円	326,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	被服学科	820,000円	200,000円	331,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	家政経済学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
文学部	日本文学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	英文学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	史学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
人間社会学部	現代社会学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	社会福祉学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	教育学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	心理学科	720,000円	200,000円	322,600円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	文化学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
理学部	数物情報科 科学科	1,020,000円	200,000円	323,000円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	化学生命科学科	1,020,000円	200,000円	337,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
国際文化学部	国際文化学科	770,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
通信教育課程	児童学科	150,000円	30,000円	53,000円	実験実習料(2022年度1-4年次平均額)
	食物学科	150,000円	30,000円	43,000円	実験実習料(2022年度1-4年次平均額)
	生活芸術学科	150,000円	30,000円	49,000円	実験実習料(2022年度1-4年次平均額)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>【アドバイザー制度】 各学科の学年ごとに2名以上の専任教員によるアドバイザーを配置し、学生の履修に関する相談などを受けている。授業を休みがちの学生や成績不振の学生についても、アドバイザーが個別面談を行っている。留年者、休・退学者については、学科長とアドバイザーを中心に対応し、学部ごとに全教員で情報を共有している。</p> <p>【新入生オリエンテーション】 新入生に対しては、各学科のアドバイザーと学生のオリエンテーション委員によって新入生オリエンテーションを行っている。オリエンテーション委員は各学科3年次学生を中心に4～5名で構成されているため、新入生は大学におけるロールモデルを身近に感じながら大学での勉学の仕組みを理解することができる。</p> <p>【GPA制度を活用した指導】 GPA制度を活用し、成績不振の学生への個別指導に関する申し合わせを作成し、個別指導</p>

記録を基に各学科が成績不振の学生の状況を把握して個別指導を徹底している。

【経済的支援】

経済事情で学業継続が困難な学生への経済支援の給付型奨学金として日本女子大学桜楓奨学金、日本女子大学泉会学業支援給付奨学金がある。

家計急変時には、給付型の日本女子大学泉会緊急支援金や貸与型の日本女子大学育英奨学金、日本女子大学大学院奨学金がある。

表彰制度の奨学金としては、学業成績優秀者に対し後期授業料が減免される日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞や各学科・専攻独自の奨学金が設けられている。

その他、あらゆる分野で優れた業績をあげた学生に給付される日本女子大学特別活動給付奨学金等、各種奨学金がある。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【インターンシップ参加支援】

インターンシップガイダンス/ビジネスマナー研修/事前オリエンテーション

在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した職業体験を行なうことができるように、多様で充実したインターンシップへの参加を支援している。

【低学年向けガイダンス】

1年次から参加可能な「低学年キャリアガイダンス」や「低学年向けキャリアデザインセミナー」を実施し、自らのキャリアについて考え、充実した学生生活を送るよう促している。

また、マスコミ、教員、公務員ガイダンスなども、低学年から参加可能である。

【就職ガイダンス実施】

3年次より本格的に開催する就職ガイダンスでは、「業界研究」「企業研究」「面接対策」など、就職活動をする上で必要な基礎的な内容をおさえている。さらに、学生が女性の働き方やキャリアデザインを見据えた上で活動を進められるように配慮されている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の学習・生活の支援、特に問題を抱えた学生への適切な対応を全学的に行うために、学生生活部、学務部、カウンセリングセンター、保健管理センターが連携し、学生支援ネットワークを立ち上げ、「四つ葉のクローバー」のマークのある学生相談窓口へ気軽に訪れることが出来るよう体制を整えている。

学生支援ネットワークでは、学生窓口となる上記部門と学科・専攻が協力・連携し、情報共有や学生対応に関する研修会を毎年開催している。また、入学式では「有意義な学生生活を送るために」と題して、学生支援ネットワークによる説明を行い、保護者へも方針や注意点を伝えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103439
学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		265人	250人	281人
内 訳	第Ⅰ区分	146人	146人	
	第Ⅱ区分	65人	63人	
	第Ⅲ区分	54人	41人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				—
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	18人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	37人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。